

タイ人日本語学習者の「申し出の断り」表現に見られる 「マイペンライ」の影響

－ポジティブ・ポライトネスの表明として－

浜田昌子 成田高宏

要 旨

タイ人日本語学習者は「申し出の断り」場面で「大丈夫」を不適切に用いることがある。本研究では、日本語の「大丈夫」とタイ語の「マイペンライ」の使用範囲の異なりを分析し、語用論的転移がその主な原因であることを見出すとともに、タイ語母語話者が「マイペンライ」を使用するか否かは、対人関係よりも申し出の内容に強く影響されることを明らかにした。Brown&Levinson(1987)の公式によれば、フェイス侵害度は話し手と聞き手のD(社会的距離)、P(力)及びRx(特定文化においてある行為xが相手にかかる負荷度の絶対的順位に基づく重み)の和であるという。調査結果は、タイ社会における「申し出の断り」のフェイス侵害度を決定する要素としてRxがより大きな割合を占めることを示唆している。授業の際、母語と目標言語の意味上のずれや、ポライトネスに関する文化差などに留意することも、教師の役割の1つとして重要であると考えられる。

キーワード: タイ人日本語学習者 申し出の断り ポジティブ・ポライトネス・ストラテジー 語用論的転移 精神的負荷度

1. はじめに

本研究は、申し出の断り場面におけるタイ人日本語学習者の「大丈夫」の誤用が、主にタイ語の「マイペンライ」という語から生じることを調査結果より示すとともに、タイ人による申し出の断りの言語行動が、ポライトネス理論においてどのように位置づけられるか、考察するものである。

1.1 「マイペンライ」について

タイ人日本語学習者は日本語の「大丈夫」を不適切な場面で用いることがある。例えば、「ありがとう」に対して「大丈夫です」と答えるというような誤用や、教師からの食事代の支払いの申し出に対する、学生の「先生、大丈夫です」という回答のような、違和感のある使用が見られる。

学習者の中間言語に見られる不適切な言語使用の原因として、言語転移や過剰一般化、教師による訓練上の転移、目標言語知識や能力の不足を言い換えで補おうとするコミュニケーションストラテジーの影響など、様々な要素が考えられる。しかし、タイ人日本語学習者の「大丈夫」の不適切な使用は、タイ語なら「マイペンライ」が使われる場面で多く見られるため、言語転移による大きな影響力が推測される。すなわち「マイペンライ」が日本語の「大丈夫」よりも広く様々な場面で用いられる表現であるため、これを「大丈夫」に置き換えた学習者が、日本語では適切でない場面でこれを用いるのではないかということである。

堀江（1995, 2000）は、「マイペンライ」が、謝罪や礼への応答、申し出の断り、慰めや励まし、依頼の承諾、トラブルによる相手との緊張緩和のためなど、さまざまな場面で使われる表現であることを明らかにしている。また、「マイペンライ」の使用の可否が、対人関係、すなわち上下関係や親疎関係の違いによって異なること、使用される場合にも、内容（理由や謝辞など）との組み合わせに対人関係が影響することを示唆している。このような背景から、本研究では「マイペンライ」を配慮の表現と捉え、「マイペンライ」と「大丈夫」の使用範囲の異なりには、語用論的な問題が大きく関わっていると考える。

「マイペンライ」が「申し出の断り」場面で使用される際、その使用に影響する要素は次の二つに大きく分けることができそうである。一つは、前述のような話し手と聞き手との「対人関係」、もう一つはどのような申し出を断る際に用いられるかという「申し出の内容」である。申し出には、手伝いの申し出もあれば、食事代や飲食物を提供するような申し出もあり、このような内容の違いが「マイペンライ」の使用の適切さに関わっていると推測される。

一方、「大丈夫」の場合、親しさや上下関係などの「対人関係」はあまり関係なく、「申し出の内容」が強く影響していると考えられる。「大丈夫」は、「相手が自分や自分に関わる物事を心配して申し出ている」と受け取った場合、つまり相手の心配心が読み取れる申し出に対してのみ使われる。例えば、食事代の支払いの申し出では、「お金をあまり持っていないのではないか」という相手の心配心を感じた、という特殊な状況でのみ「大丈夫」という答えが自然な発話とみなされる。

このような「マイペンライ」と「大丈夫」の使用範囲の違いは、日本語学習者が「大丈夫」が適切でない場面で「マイペンライ」を「大丈夫」に置き換えて用いた場合、負の転移の原因となりうる。そこで本研究では、「申し

出の断り」場面における両者の違い、及び、タイ人日本語学習者の「大丈夫」の使用に関する「マイペンライ」の影響について明らかにするため、1)「マイペンライ」の使用には、「申し出の内容」、「対人関係」のどちらの要素がより強く影響するのか。2)「申し出の断り」場面で「マイペンライ」及び「大丈夫」が使われるのはそれぞれどのような内容の申し出に対する応答としてか。3)タイ語では「マイペンライ」が使われるが日本語では「大丈夫」を使用しない場面において、タイ人日本語学習者は「大丈夫」を使用しているか。4)日本での留学経験のある学習者は、留学経験のない学習者よりも誤用が少ないか、という4つの課題を設定した。

1.2 「申し出」及び「ポライトネス・ストラテジー」の定義

本研究は、「申し出」という行為を定義するため、蒲谷他(1998)が提唱した行動展開表現における、「行動」「決定権」「利益」が自分と相手のどちらにあるか、という考え方を採用する。すなわち申し出をされた側の「利益」のために申し出側が「行動」し、その「決定権」は申し出をされた側にあるという構造に則し、そのような発話が行われたと考えられる状況を「申し出」場面として扱う。

また「ポライトネス・ストラテジー」についてはBrown&Levinson(1987)により示された枠組みを採用する。「申し出の断り」は、FTAである断りの際「他者に認められたい、好かれたい」という、申し出側からのプラス方向のフェイスに対して、それを損なわないよう配慮するためのポジティブ・ポライトネス・ストラテジーを含みうる言語行動、と捉えることができる。近年、友人間の冗談の言い合いなどをポジティブ・ポライトネスとして扱うことがあるが、FTAを伴っていない点において「申し出の断り」とは異なる。しかし本研究はポジティブ・ポライトネスのこのような解釈を否定するものではない。

2. 調査方法

調査は、2004年7月～10月にタイ及び日本で行った。日本語母語話者92名、タイ語母語話者83名、留学経験のないタイ人日本語学習者(以下「学習者」)84名、タイ人日本留学経験者19名(以下「経験者」)、計278名を対象とした談話完成テスト(以下「DCT」)、及び日タイ母語話者各7名、学習者15名、経験者7名へのフォローアップインタビューを行った。日本人は東京都内の大学生(大学院生を若干名含む)、タイ語母語話者及び学習者は、バンコクにある3大学の学生である。学習者は初級を終了し中級レベル

の内容を学習している日本語専攻の学生である。経験者は11ヶ月～4年半の日本留学経験を持ち、そのほとんどが日本語能力試験1, 2級に合格している。

今回の調査は、調査協力者によって産出された断り表現を分析し、量的な分析により傾向をつかむことを目的としている。場面をコントロールし、効率よく大量のデータを集めるために、産出データを集める方法のうちでも最も強制力のあるDCTを用いることにした。今回使用したDCTは断り表現に限定して収集するという目的から、断る理由を状況説明文中に入れ、さらに「断る場合、何と断りますか」という質問を加えることで、回答者が申し出への承諾の回答を書かないようにした(資料参照)。

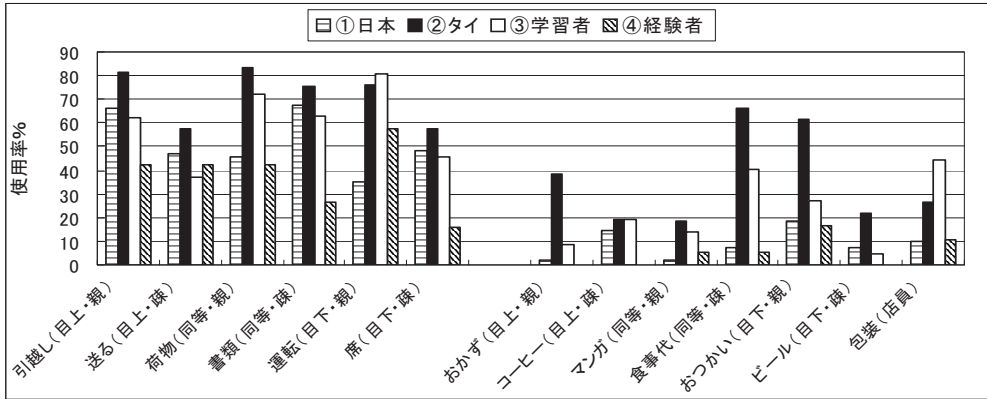
質問紙には全部で13の「申し出の断り」場面を用意した(表1)。場面は「大丈夫」を用いることができるかどうかという観点から、「大丈夫」を使っても不自然にならない場面Aと不自然に感じられる場面Bの2種類に分けられる。AとBそれぞれの分類に、親/疎×目上/同等/目下のすべての組み合わせ(各6通り)の相手が現れるよう設定した。申し出の内容には種類の異なるものを用意し、「マイペンライ」がどのような場合に使われるかを調べられるようにした。また、相手が店員である場面については義務の問題が関わると推測し、Cとして別に設定した²⁾。

[表1 場面構成]

	分類	上下	親疎	申し出の内容
大丈夫は自然	A	目上(先輩)	親	引越しの手伝い
		目上(上司)	疎	病院まで車で送る
		同等(友達)	親	荷物を持つ
		同等(同僚)	疎	書類整理の手伝い
		目下(後輩)	親	車の運転を替わる
		目下(年下)	疎	バスで席を譲る
大丈夫は不自然	B	目上(年上)	親	おかずを包む
		目上(先輩)	疎	ついでにコーヒー
		同等(友達)	親	マンガを貸す
		同等(同僚)	疎	食事代を払う
		目下(後輩)	親	ついでにおつかい
		目下(後輩)	疎	ビールを注ぐ
C	店員	疎	プレゼント用の包装	

3. 調査結果

3.1 「マイペンライ」が使われる場面

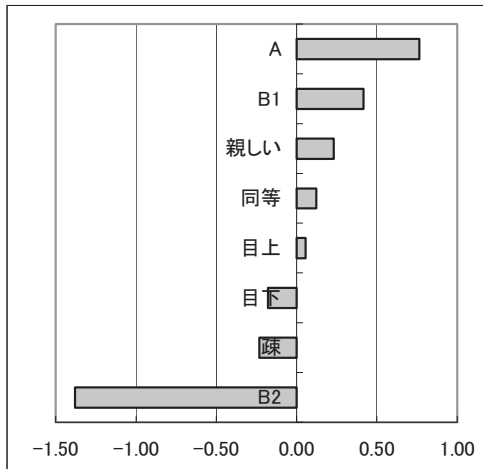


【図1 「マイペンライ/大丈夫」の使用率】

図1はタイ語母語話者の「マイペンライ」と日本語母語話者、学習者、経験者の「大丈夫」の使用率を場面ごとに表したものである（中央より左が場面A，右が場面B,C）。日本語母語話者の「大丈夫」の使用率（①日本）は，Aの場面で高く，B，Cの場面で低い。引越しの手伝い[引越し]やバスの席を替わる[席]などの，相手を心配して行う申し出の断りには使い，自分のコーヒーをいれるついでにコーヒーをいれる[コーヒー]，相談にのってくれたお礼に昼食をご馳走する[食事代]という心配心のない申し出に対しては使用率が低い。Aはすべて心配心の伴う場面であり，B，Cはそうではない場面であると解釈できる。つまり，心配する状況での申し出かどうかによって「大丈夫」を使用する傾向に差があるといえる。

次に「マイペンライ」の使用率（②タイ）に着目すると，Aの6場面とBの[食事代][おつかい]では使用率が高く，同じBでも[コーヒー][マンガ][ビール][包装]では低いことが読み取れる。相手への心配心のある状況だけでなく，お礼に昼食をご馳走する[食事代]，外に買い物に行くついでにおつかいを申し出る[おつかい]でも使用されるが，ついでにコーヒーをいれる申し出[コーヒー]やマンガを貸そうという申し出[マンガ]などの，物の勧めととれる場面では使用されにくいという結果となった。堀江（1995）では飲食物の提供やコーヒーをいれる申し出に対して「マイペンライ」が使用されるとしているが，本研究ではあまり使用しないという結果が得られた。

3.2 「マイペンライ」の使用に影響する要素



【図2「マイペンライ」使用と各要素】

「マイペンライ」を使用するが、物の勧めの場面 B2 では使用しないという傾向が見られた。また、申し出の内容、親疎、上下関係それぞれと「マイペンライ」の使用の相関係数は、申し出の内容 ($r=.43$)、親疎 ($r=.10$)、上下関係 ($r=.02$) となり申し出の内容に中程度の相関が見られた。すなわち「マイペンライ」の使用に最も影響を及ぼしているのは対人関係の変数ではなく、申し出の内容であるということが出来る (判別的中率 71.9%)⁴⁾。

これらの結果、「申し出の断り」場面における「マイペンライ」「大丈夫」の使用を決定する重要な要素は、どちらも「申し出の内容」であり、それが「対人関係」による影響を上回ることがわかった。しかし、「大丈夫」は「心配心のある申し出か否か」、「マイペンライ」は「物の勧めではない手助けの申し出か否か」が使用を決定しているため、両者の範囲は異なる。「大丈夫」は、「マイペンライ」の使用範囲である「物の勧めではない手助け」であり、かつ「心配される状況」の時のみ使用される。すなわち「マイペンライ」は適切だが「大丈夫」を使用すると不適切になってしまう場面が存在するということができる (図3)。

3.3 学習者の日本語に見られる「マイペンライ」の影響

次に、学習者と経験者による「大丈夫」の不適切な使用について分析を行った。「マイペンライ」は使われるが「大丈夫」は使われない【食事

代][おつかい]の場面での、日本語母語話者と学習者の「大丈夫」の使用率に母比率の差の検定を行ったところ、有意な差が認められた ($z=4.64$, $p<.001$)。日本人が「大丈夫」をあまり使用しない、心配心のない場面である[食事代][おつかい]の場面において、
 [表2「大丈夫」が不自然となる場面]

	日本人	学習者	経験者
件数	24	56	4
比率	13.0%	33.9%	10.8%

3.4 フォローアップインタビュー

フォローアップインタビューでは「マイペンライ」または「大丈夫」について「どんな気持ちで言ったのか」、使わなかった場合には『マイペンライ／大丈夫』は使えないか」など言語使用に関する意識を尋ねる質問や「同じ場面で、もし相手が親しかったら」など対人関係の要素を入れ替えた場合にどう答えるかなどの質問をした。日本語母語話者、学習者、経験者には日本語でインタビューを行い、タイ語母語話者には調査者立会いのもと、タイ人の協力者が母語で行った。

「マイペンライ」を使用したことについてのタイ語母語話者からのコメントは、①申し出てくれた相手の思いやりの気持ちに対して②遠慮の気持ちを示すため③丁寧さを表すため④断りを示すため、のようにまとめられる。これらから「申し出の断り」における「マイペンライ」は、相手の思いやりに対してこちらの意を示す言葉、丁寧さや遠慮の気持ちを兼ね備えた断りの言葉として意識されていることがわかる。一方、「マイペンライ」を使用しなかった理由として「使うと断りかどうかはっきりしない」とする意見があった。これは、④のコメントと相反する点で注目される。丁寧に断りの意を示すことができると考える場合がある一方で、用いれば断りが曖昧になると考える場合もあるようである。

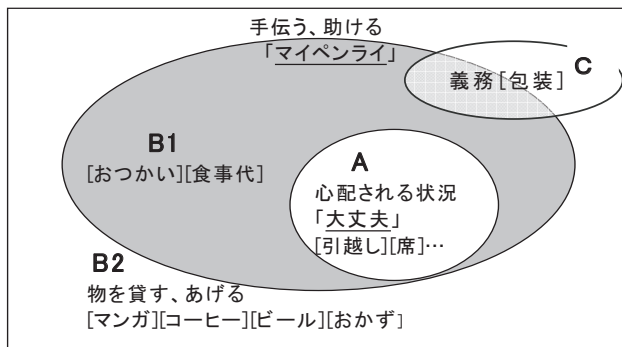
対人関係別の使用の理由は、回答者や場面によって様々であった。親しくない人に丁寧さを表すために使うという回答があった一方で、親しい人の思いやりに応えるために使うという回答もあった。配慮から用いているものの、親疎上下関係によって使うべき、とする社会的規範があるわけではないことが窺える。

一方、日本語母語話者による「大丈夫」は、相手の心配に対し心配には及ばない、ということを示す言葉であり、つらいことや心配される状況が読み取れ、相手の心配を察したときでなければ適切ではない、とい

うことがインタビューからも確認できた。[食事代]の場面で「大丈夫」を使うと相手が払ってくれることを期待していたと思われてしまう、という回答もあった。心配されていない状況で用いると、心配されることを期待していたという意味を含んでしまう恐れがあると考えられる。対人関係を使用の理由とする意見は得られなかった。

「大丈夫」を使用すると不自然になる[おつかい][食事代]の場面で「大丈夫」を使用した学習者は、「マイペンライ」と同じ意味で「大丈夫」を使ったと回答している。一方、留学経験者の場合は「マイペンライ」にあたる表現は「大丈夫」だけではないとの意識を持っていることが窺えた。

3.5 調査結果のまとめ



以上の結果から、「申し出の断り」場面における「マイペンライ」と「大丈夫」の使用範囲は図3のように表せる。「申し出の断り」場面において「マイペンライ」は、物の勧めではない手助けの申し出に対

【図3 「マイペンライ」と「大丈夫」の使用範囲】

して使われ、「大丈夫」は心配される状況での手助けの申し出に対して使われる。両者の違いは、図の B1「物の勧めでなく手助けであり、かつ相手に心配心のない」申し出場面での使用の可否であり、学習者の負の転移はこの場面で起こりうる。図中 C[店員からの包装の申し出]は、本来「マイペンライ」が使用されるべき手伝いの申し出であるが、その行為及び申し出そのものが義務であるために配慮の必要性が低くなっていると考えられる⁵⁾。

また、日本人が「大丈夫」を使用しない場面で、留学経験のない学習者の3分の1が「大丈夫」を使用したのに対し、留学経験者にはほとんど使用が見られなかった。これは「結構です」など、他の言葉を用いて断りの意を表そうとしていたためであり、留学経験者は留学経験のない学習者と比べ、より母語話者に近い使い方をしているということが出来る。ただし、その要因を「大丈夫」と「マイペンライ」の使用範囲の違い

いの認識，すなわち転移の克服だけに求めるべきではない。第二言語環境により学習者の中間言語がより高いレベルに引き上げられたこと，転移の克服はその一部に過ぎないことに留意しなければならないだろう。

4. 考察

以上の調査結果を，Brown&Levinson(1987)によるポライトネス理論から考えるとどのようなことがいえるだろうか。

Brown&Levinson(1987)は，FTA を行う際の相手のフェイスを侵害する度合いを $W_x = D(S,H) + P(H,S) + R_x$ という公式として示している。 W_x は「フェイス侵害度」， D は「話し手 S と聞き手 H の社会的距離」， P は「聞き手 H の話し手 S に対する力」， R_x は「特定文化においてある行為 x が相手にかける負荷度の絶対的順位に基づく重み」を表す。

申し出の断り場面におけるポライトネス・ストラテジーは、「関わり合いを持ちたい」と考え働きかけてきている，あるいは関係を維持したがっていると推測される相手に対し，その働きかけや関係を遮断することを目的とした，あるいは遮断せざるを得ない FTA において，その FTA による相手へのフェイス侵害度を和らげるために用いられるポジティブ・ポライトネス・ストラテジーと捉えられる。また，このような場合に相手にかかると予測される「負荷度」は，遮断されたことによる驚きや疎外感，気まずさなどの精神的負荷度と捉えることができる。

タイ語のマイペンライは，堀江（1995,2000）や本調査のインタビュー結果からわかるように，「対人関係への配慮の表れ」とタイ語母語話者に認識されていることばである。すなわち，相手のフェイスを侵害してしまうと話し手が見積もった場合にポライトネス・ストラテジーとして用いられる表現とすることができる。

そのマイペンライが，物の勧めの断り場面ではなく，手伝いの申し出の断り場面で主に使用されることが調査によりわかった。マイペンライは，申し出が物であっても行為であっても，その断りの際に使用できる語義の広いことばであると，タイの人々に意識されていることが，先行研究からわかる（堀江 1995）。しかし，今回は DCT を用い「申し出の断り」に限定した 13 場面を設定したことにより，より詳細かつ実際の使用に近いデータを収集することができた。この調査結果は，タイ社会において，物を勧めそれを断られた時に感じる精神的負荷度と，手伝いを申し出てそれを断られた時に感じる精神的負荷度とでは，後者の方がより大きく，そのため後者の場合のみフェイス侵害度 W_x が高くなり，

「マイペンライ」というポライトネス・ストラテジーが使用されることを示していると解釈できるのではないだろうか（両 Rx の程度の差には、社会文化的要素が影響していると考えられるが、これについては今後の課題としたい）。

それに対し、D や P の主な構成要素と考えられる親疎関係、上下関係と、マイペンライの出現率との間には関係が見いだせなかった。これらのことから、タイ社会における「申し出の断り」では、フェイス侵害度 Wx を決定する要素 D、P、Rx のうち、Rx の影響力の占める割合が D や P に比べ、大きいということがいえそうである。つまり、申し出の断り場面における「マイペンライ」による「対人関係への配慮」は、相対的な上下関係や、親しさといった基準によって行われるというより、相手への思いやりの気持ちから、あるいはそれを示すことを当然とする社会文化的規範により行われるということができよう。

一方、「大丈夫」の方はどうだろうか。この語は、もともと「対人関係に配慮した」ことばというわけではない。したがって、相手に「心配されうる状況」においては、直接的な断り表現を避ける一つのポライトネス・ストラテジーになりうるが、「心配されうる状況」でない限り、語が持つもともとの意味のみを表すため、ほとんど使用がみられなくなるものと考えられる。そのため、「大丈夫」を、母語のマイペンライと同様の場面で使用可能なポライトネス・ストラテジーと思いこんでいるタイ人日本語学習者により、不適切な場面で用いられることになる。これは、「マイペンライ」のような、非常に幅広い場面で用いることのできる簡潔かつ丁寧な断り表現が、日本語にないことが一因と考えられる。

また、逆に「心配されうる状況」でないときにもこの語を使用する日本語母語話者が少数ながらいるということも注目に値する。一般的に、意味上不自然に感じられるこの用法は、「大丈夫」という語をタイ語の「マイペンライ」のように対人関係に配慮した表現として拡大使用している結果と考えられはしないだろうか。

日本語の断り表現は「いいえ」「結構です」など直接的なものが多く、それだけでは「きつい」表現と感じられてしまう。そのため断る理由や、感謝の表現を添えることが望ましいとされるのが一般的である。これらこそが日本語の「断り」におけるポライトネス・ストラテジーとしての代表的表現と言えるだろう。しかし、もし日本語にも「マイペンライ」のように簡潔に断りの意と対人関係への配慮を表せることばがあれば、冗長な表現になることを避けることができる。簡潔な表現であるほど

「何か別の意味があるのかもしれない」と相手に誤解される危険も減るだろう。あくまで可能性としてであるが、「大丈夫」のポライトネス・ストラテジーとしての新しい用法が、調査結果に表れたと解釈できるかもしれない。

5. おわりに

5.1 日本語教育への提言

日本語学習において、「誤用といえないまでも誤解を生むような表現」は、それほど不自然でないために修正されにくい。このような状態になることを未然に防ぐため、「断り」表現に限らず様々な表現を教える際には、母語と目標言語の意味上のずれに気を配り、またポライトネスに関する文化差から誤解が引き起こされるようなことのないよう、あえてそのような場面をロールプレイとして用意し、指導するなどの工夫が、授業をコーディネートする教師に望まれるだろう。

5.2 今後の課題

今回の調査で用いた DCT は、比較文化語用論の分野で広くその有用性が認められている。しかし同時に DCT の欠点に関する議論もあり、今回の調査結果が「申し出の断り」場面に現れる自然発話を反映しているとは言い切れない。たとえば、自然発話では観察可能であるターン数や繰り返しなどについて、DCT では確認できない。また、話されるべき言葉を記述することの不自然さについてもしばしば批判される。DCT のこのような欠点を補うために、今後は、ロールプレイなど別の形でのデータも収集し、合わせて分析していく必要があるだろう。

また、今回の調査では、タイ人日本語学習者による「大丈夫」の不適切な使用の一因として、タイ語の「マイペンライ」からの転移を示すために、限定的な観察、分析を行った。今後は「申し出の断り」場面において用いられるポライトネス・ストラテジーとしての表現には、タイ語の「マイペンライ」、日本語の「大丈夫」以外にどのようなものがあり、どのような組み合わせで表れるのかということ、それについて日本語母語話者、タイ語母語話者、タイ人日本語学習者の間にどのような差異があるか、またその要因は何かということを探っていきたい。それにより、タイ人日本語学習者の日本語習得の一助となるだけでなく、学習者の母語における習慣の違いに対し、教師がどのように向き合うべきかということについて、何らかの示唆ができるような成果を導き出したいと考え

ている。

注：

- 1) 蒲谷他(1998) pp.116-161。ただし、相手に物をあげる、バスの席を譲るといったような場合に使われる表現を、「提供表現」とし申し出と区別しているが、本研究では区別をせずいずれも申し出表現として扱う。
- 2) これらの場面がタイでもあり得る場面か、文化の違いから回答が困難な場面がないかをタイ語母語話者2名にチェックしてもらった上で本調査を行った。
- 3) 図2の横軸は各要素の、目的変数(「マイペンライ」を使うか否か)に対する重みを表し、プラス方向が使用する傾向、マイナスが使用しない傾向を示す。
- 4) 数量化Ⅱ類は質的変数に用いられる判別分析である。説明変数を使って目的変数を予測するための規則を導き出し、その規則に基づいて目的変数(この場合は「マイペンライ」を使うか否か)を判別する手法。判別の中率は判別結果と実際のデータとの一致の割合を表し、数値が大きいほど精度が高い。
- 5) トマス(1998)はBrown&Levinson(1987)の公式で挙げられた、フェイス侵害度を決定する3要素に「話し手と聞き手の間の権利と義務の相対的關係」を加えることを提唱している。p143。

参考文献

- Brown,P.&Levinson,S,C.(1987) *Politeness: Some universals in language usage*. Cambridge: Cambridge University Press
- 蒲谷宏 川口義一 坂本恵(1998)『敬語表現』大修館書店
- トマス, ジェニー (1998)『語用論入門 話し手と聞き手の相互交渉が生み出す意味』研究社
- 堀江プリヤ(1995)『日本語と外国語との対照研究 マイペンライ—タイ人の言語行動を特徴づける言葉とその文化的背景についての考察 その1』国立国語研究所
- 堀江プリヤ(2000)『日本語と外国語との対照研究 マイペンライ—タイ人の言語行動を特徴づける言葉とその文化的背景についての考察 その2』国立国語研究所

資料

【Aの場面】① あなたは引越しをしました。部屋で荷物の片付けをしているときに、仲のいい大学の先輩から電話がかかってきました。その先輩が手伝おうかと言いました。片付けはもうすぐ終わります。何と断りますか。

先輩：片付け手伝いに行こうか。あなた：_____

②あなたは会社員です。会社でけがをして病院に行くことにしました。あまり親しくない上司に話したら、近くの病院まで車で送ろうかと言われました。あなたは家族に迎えにきてもらうように、もう電話しました。何と断りますか。

上司：近くの病院まで送らしましょうか。あなた：_____

③仲のいい友だちと歩いています。あなたは大きなかばんを持って歩いています。しばらくしてその友だちが、かばんを持とうかと言いました。かばんに大事な書類が入っているので自分で持ちたいと思っています。何と断りますか。

友だち：かばん持つよ。あなた：_____

④ここは会社です。あなたは上司に頼まれた資料の整理を一人でしています。そこにあまり親しくない同僚が来て、手伝おうかと言いました。その仕事はもうすぐ終わります。何と断りますか。

同僚：手伝いましょうか。あなた：_____

⑤あなたは会社員です。あなたは会社の人たちと車で出かけました。あなたがずっと運転をしていたら、仲のいい後輩がかわろうかと言いました。あなたはほかの人の運転は心配なので自分で運転したいです。何と断りますか。

後輩：運転かわりますよ。あなた：_____

⑥あなたは足をけがしています。バスの中で立っていたら、前に座っていた高校生があなたに席を譲ろうとしました。あなたが降りるバス停にもうすぐ着きます。何と断りますか。

前の人：どうぞ。あなた：_____

【B1の場面】①あなたは会社員です。昼休みにレストランであまり親しくない同僚から仕事について相談を受けました。レジでお金を払うとき、同僚があなたの分も払うと言いました。あなたは高いものを食べたので自分で払うべきだと思っています。何と断りますか。

同僚：ここは私が払います。あなた：_____

②ここは会社です。あなたは今日、会社の友人といっしょに昼ご飯を外に食べに行く約束があります。昼休み、その友人を待っていると、仲のいい後輩がそばに来て、あなたの昼ご飯も買ってこようかと言いました。あなたは友人と約束があるので断りたいです。何と断りますか。

後輩：お昼ご飯を買いに行きますが、〇〇さんのも買ってきましょうか。あなた：_____

【B2の場面】①親しい友だちの家に行き、夕飯をごちそうになりました。帰るとき、友だちのお母さん（あなたが親しみを感じている人です）が、たくさん残ったおかずを指して、

持って帰らないかとききました。今日はこれからまだ用があるので断りたいです。何と断りますか。

お母さん：これ包むから、持って帰らない？ あなた：_____

②あなたは新入社員です。昼休み、あなたが自分の席で仕事をしていると、まだあまり親しくない先輩がそばに来て、あなたのそばで自分のコーヒーをいれながら、あなたの分もいれようかと言いました。あなたはおなかの調子がよくないので断ろうと思います。何と断りますか。

先輩：○○さんもコーヒーいりますか。あなた：_____

③親しい友だちがマンガを読んでいます。何を読んでいるかきいたところあなたが読んだことのあるマンガでした。友だちがおもしろいから貸そうかと言いました。何と断りますか。

友だち：これおもしろいよ。貸そうか。あなた：_____

④会社の人たちと食事に行きました。あなたはまだあまり親しくない後輩（新入社員）の隣に座っています。その後輩が、あなたのコップにビールを注ごうとしました。あなたは飲みたくないです。何と断りますか。

後輩：どうぞ。（ビールを注ごうとする）あなた：_____

【Cの場面】デパートで香水を買いました。レジで店員に、プレゼント用に包むかどうかきかれました。自分で使うものだし、急いでいるので、断ろうと思います。何と断りますか。

店の人：プレゼント用にお包みしましょうか。あなた：_____

(文化外国語専門学校 浜田)
(サハリン国立総合大学 成田)